

4. 參考資料

Reference

青森 COC+推進機構 規約

第1章 総 則

(名称)

第1条 本機構は、「青森 COC+推進機構」と称する。

(機構員)

第2条 本機構は、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）に係る連携・協力に関する協定」（平成27年11月26日）を締結した大学等、青森県、青森市、弘前市、八戸市及びむつ市の代表者をもって構成する。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 本機構は、機構員及び青森県内の企業・NPO等との連携・協力により、青森県の将来を担う人財の育成や地域への若者定着の促進、大学等を核とした地域産業の育成・雇用創出に向けた事業（「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」）を実施し、青森県の重要課題である人口減少の克服に資することを目的とする。

(所管事項)

第4条 本機構は、前条の目的を達成するため、次の事項を所管する。

- (1) 事業の計画・立案にかかわること
- (2) 事業の予算及び執行にかかわること
- (3) 事業の評価にかかわること
- (4) 各機構員及び企業・NPO等の連携・協力にかかわること
- (5) その他、事業の円滑な実施に必要なこと

第3章 機 関

第1節 役員等

(役員の種類及び定員)

第5条 本機構に、次の役員を置く。

- (1) 機構長 1名
- (2) 副機構長 2名
- (3) 監事 2名

(選任等)

第6条 前条の機構長は弘前大学長をもって充てる。副機構長及び監事は、機構員の互選により選任する。

(職務等)

第7条 機構長は、本機構を代表し、業務を統括する。

2 副機構長は、機構長を補佐し、機構長に事故あるとき又は欠けたときは、機構長があらかじめ指名した順序によりその職務を代行する。

3 監事は、本機構の業務等の執行状況を監査する。

(任期)

第8条 役員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者又は現任者の残任期間とする。

(COC+推進コーディネーター)

第9条 本機構に、COC+推進コーディネーターを置く。

2 COC+推進コーディネーターは、事業推進のための進捗管理、連絡調整、経費の配分方針に関する業務を行う。

第2節 機構会議等

(機構会議)

第10条 本機構に、機構の運営及び事業の重要事項を審議するため、機構会議を設置する。機構会議は、機構長、副機構長及びCOC+推進コーディネーターをもって構成する。

2 機構会議について必要な事項は、別に定める。

(教育プログラム開発委員会)

第11条 本機構に、地域創生人財の育成に係るプログラムを開発するため、教育プログラム開発委員会を置く。

2 教育プログラム開発委員会について必要な事項は、別に定める。

(外部評価委員会)

第12条 本機構に、事業に関して第三者による客観的な評価を行うため、外部評価委員会を置く。

2 外部評価委員会について必要な事項は、別に定める。

第3節 総会

(総会)

第13条 総会は、全ての機構員をもって構成する。

2 総会について必要な事項は、別に定める。

(召集)

第14条 機構長は、毎年度1回以上、総会を招集する。

2 機構長は、必要に応じ臨時総会を招集することができる。

(議長)

第15条 総会の議長は、機構長又は機構長の指名する副機構長がこれを行う。

(定足数及び表決)

第16条 総会は、機構員の過半数の出席をもって成立する。ただし、当該議事に関し書面をもってあらかじめ意思を表示した者は出席したものとみなす。

2 出席者の過半数をもって議決とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第4章 その他

(事務局)

第17条 本機構の事務を処理するため、事務局を置く。

2 事務局は、国立大学法人弘前大学に置く。

(委任規定)

第18条 この規約に定めるもののほか、本機構の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成27年11月26日から施行する。

青森COC+推進機構 機構員名簿

【平成27年11月26日現在】

役職等	氏名
(機構長) 弘前大学長	佐藤 敬
(副機構長) 青森中央学院大学長	花田 勝美
(副機構長) 八戸工業高等専門学校長	岡田 益男
(監事) 青森県立保健大学長	上泉 和子
(監事) 八戸学院大学長	大谷 真樹
東北女子大学長	小澤 熹
八戸工業大学長	藤田 成隆
弘前学院大学長	吉岡 利忠
弘前医療福祉大学長	下田 肇
青森中央短期大学長	久保 薫

青森県知事	三村 申吾
-------	-------

青森市長	鹿内 博
弘前市長	葛西 憲之
八戸市長	小林 眞
むつ市長	宮下 宗一郎

青森COC+推進機構会議 構成員名簿

【平成27年12月1日現在】

役職等	氏名
(機構長) 弘前大学長	佐藤 敬
(副機構長) 青森中央学院大学長	花田 勝美
(副機構長) 八戸工業高等専門学校長	岡田 益男
(監事) 青森県立保健大学長	上泉 和子
(監事) 八戸学院大学長	大谷 真樹
COC+推進コーディネーター	吉川 源悟

○教育プログラム開発委員会内規

(趣旨)

第1条 この内規は、青森COC+推進機構規約第11条第2項の規定に基づき、教育プログラム開発委員会の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 教育プログラム開発委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 弘前大学理事（教育担当）
- (2) COC+事業を担当する弘前大学副理事
- (3) 弘前大学から選出された者 1名
- (4) COC+事業に参加する各高等教育機関から選出された者 各1名
- (5) COC+事業に参加する各自治体から選出された者 各1名
- (6) COC+事業に参加する企業から選出された者 2名
- (7) COC+事業に参加するNPO法人から選出された者 2名
- (8) その他委員長が必要と認めた者

(委員長及び副委員長)

第3条 教育プログラム開発委員会に、委員長を置き、第2条第1号に掲げる委員をもって充てる。

- 2 委員長は、教育プログラム開発委員会の業務を総括する。
- 3 教育プログラム開発委員会に、副委員長を置き、委員長が指名する委員をもって充てる。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第4条 委員長は、会議を主宰し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数をもって成立する。

(委員以外の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(ワーキンググループ)

第6条 教育プログラム開発委員会に、次に掲げるワーキンググループを置く。

- (1) 共育型インターンシッププログラムワーキンググループ
- (2) 女子学生のキャリア支援プログラムワーキンググループ
- (3) 起業実行プログラムワーキンググループ

- 2 ワーキンググループは、各プログラム開発に関する業務を行う。
- 3 ワーキンググループについて必要な事項は、別に定める。

(その他)

第7条 この内規に定めるもののほか、教育プログラム開発委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成28年1月7日から施行する。

教育プログラム開発委員会 委員名簿

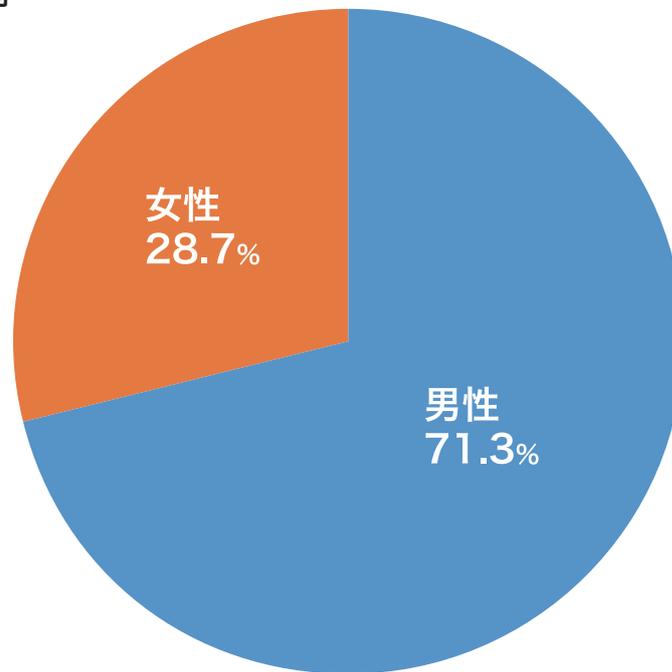
【平成28年2月19日 現在】

教育プログラム開発委員会内規 第2条	氏 名	職名等
(1) 弘前大学理事(教育担当)	伊 藤 成 治	
(2) COC+事業を担当する弘前大学 副理事	曾 我 亨	
(3) 弘前大学から選出された者	西 村 君 平	COC推進室助教
(4) COC+事業に参加する各高等 教育機関から選出された者	角 濱 春 美	青森県立保健大学看護学科教授
	小 野 昇 平	東北女子大学児童学科講師
	阿 波 稔	八戸工業大学学務部次長 土木建築工学科教授
	高 松 彰	弘前学院大学就職課長
	丹 羽 浩 正	八戸学院大学副学長 ビジネス学部教授
	塩 谷 未 知	青森中央学院大学キャリア支援センター長 経営法学部教授
	小 玉 有 子	弘前医療福祉大学地域貢献室長
	大 沢 陽 子	青森中央短期大学幼児保育学科長・教授
	丸 岡 晃	八戸工業高等専門学校産業システム工学科教授
(5) COC+事業に参加する各自治体 から選出された者	丸 尾 豊	青森県企画政策部企画調整課総括副参事
	佐々木 淳	青森市市民政策部政策推進課参事・課長事務取扱
	岩 崎 隆	弘前市経営戦略部 ひろさき未来戦略研究センター副所長
	久 保 朝 生	八戸市総合政策部政策推進課参事
	角 本 力	むつ市総務政策部総合戦略課長
(6) COC+事業に参加する企業から 選出された者	三 上 善 昭	株式会社青森電子計算センター弘前営業所調査役
	平 野 浩	三八五流通株式会社取締役人事部長
(7) COC+事業に参加するNPO法人 から選出された者	米 田 大 吉	プラットフォームあおもり理事長
	類 家 伸 一	循環型社会創造ネットワーク理事長
オブザーバー	吉 川 源 悟	青森COC+推進機構 COC+推進コーディネーター

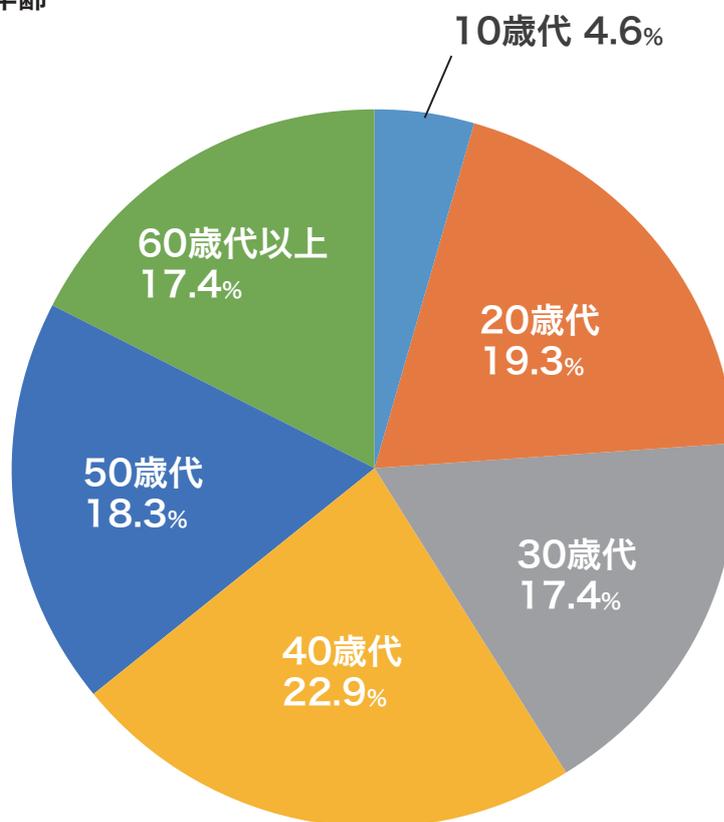
COC+シンポジウム アンケート結果

【質問1】参加者自身について

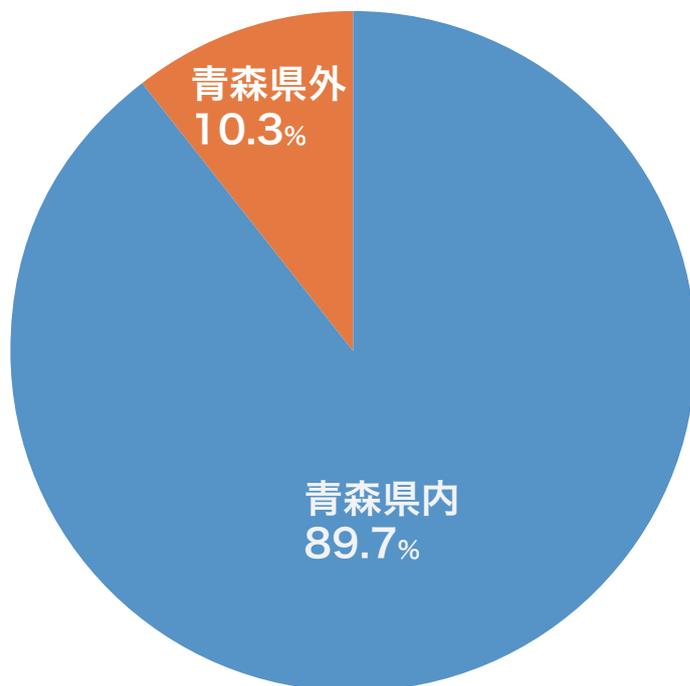
■性別



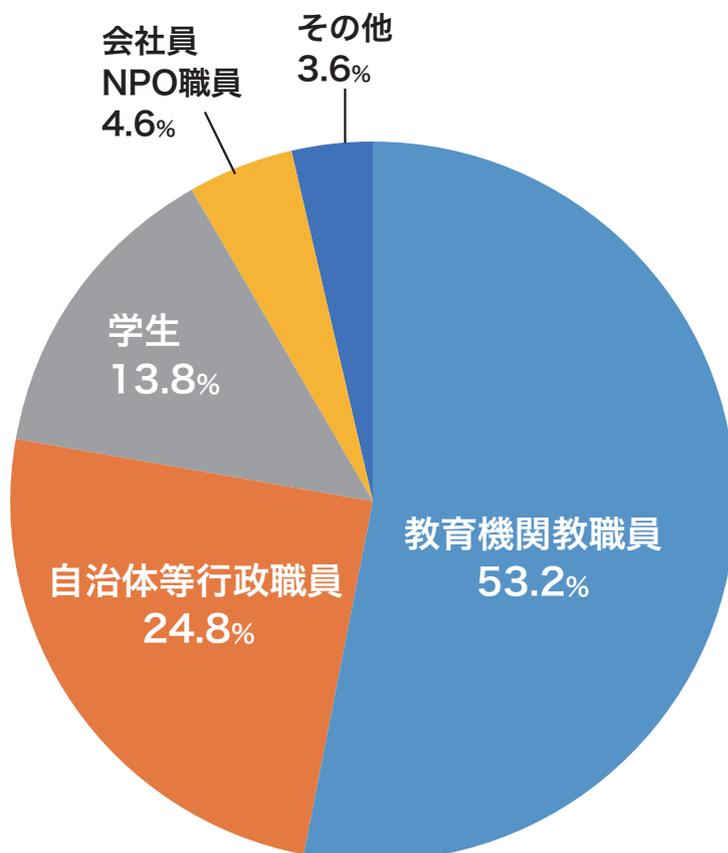
■年齢



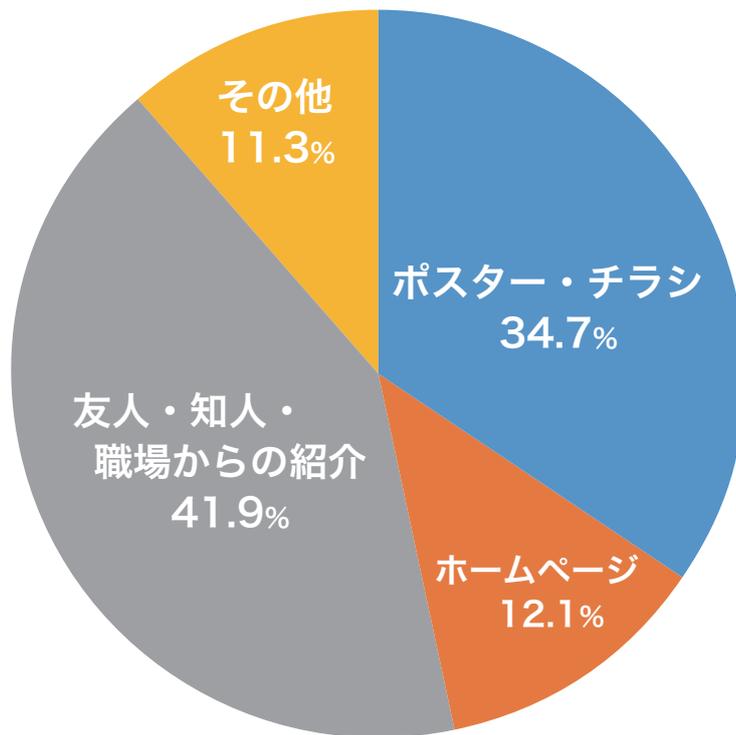
■住所



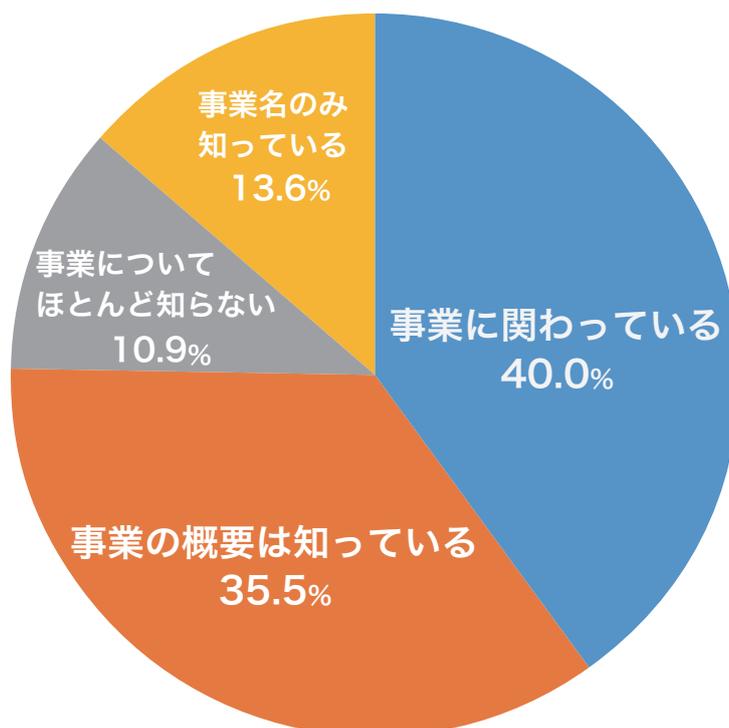
■職業



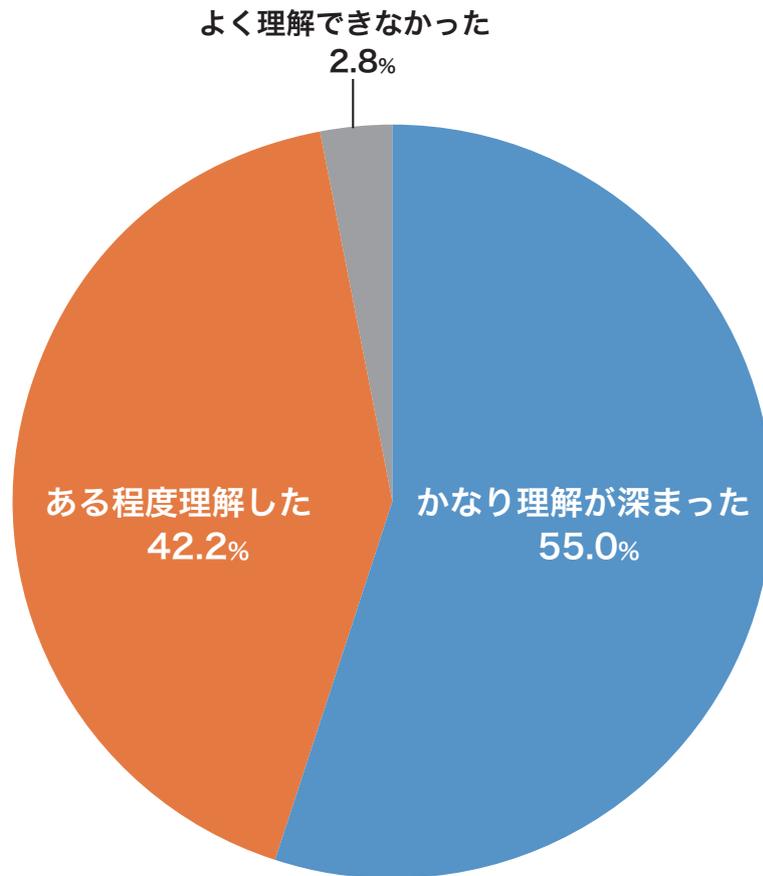
【質問2】シンポジウムの開催を何で知りましたか？



【質問3】「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」をご存知でしたか？



【質問4】今回のシンポジウムで、COC+事業への理解が深まりましたか？



【質問5】 これからのCOC+事業にどのようなことを期待しますか？（自由記述）

（抜粋）

- 地域に積極的にかかわる（人やコミュニティ）学生がどんどん出てきてもらいたい。
- 人口減少対策、就職支援基金はぜひ進めてほしい。子供たちが青森に就職するきっかけになると思う。
- 学生への理解の普及と大学でのカリキュラムの改善。
- 体験活動の基礎づくり→大学でのリハ→企業→大学での振り返りのシステム構築。
- 産学官金労のより一層の「オール青森」で取り組む体制づくりを期待したい。
- 今日のシンポジウムを通して強く感じたのは、魅力を必死で見つけていくという形ではなく、ここに住むのも悪くない、と自然に思えるようになることだと思います。
- 「青森県」の持つポテンシャルについて、青森で生まれ育った人もそうでない人も、大学も、行政も、企業も一体となって考えることができる場を使いながら、「今、青森県で実際に生活している人」が、満足して生活していける社会の構築の一端を担っていただきたい。
- 地方創生、地域出身者を地元に残すことが主のようだが、若い時は、他の世界（都市）を知り、Iターン、Uターンするのもいいのではないか？
- 地元の高校を出て、地元の大学で学び、地元の企業に就職しようとする「地元しか知らない内向きな」若者に、どうやって多様な価値観を植え付け、グローバルな社会に対応できるように育てるかが大事だと思います。
- 私は県外出身者で弘大に入りました。大学での様々な活動を通して、青森には頑張っている大人がたくさんいる！ということに気付くことができ、卒業後は、青森の県政に関わりたと思っています。もっとたくさんの大学生に出会いの場（青森で頑張る人など）ができれば良いなと思います。
- 大学で受講した授業の中で、起業家の方からお話を聞いた経験が、青森という土地に目を向ける機会となり、大変有意義だった。これからもっと実践的に起業家の方など、社会人の方とつながる場が作れたらと思う。
- 掲げる目標に対して遂行する情熱の多寡が成否を分けることは自明の理である。もはや消滅“可能性”都市は必然的に消滅へ向けて坂を転がる速度を増している。青森と同様に日本の端部にてCOC+に係わる者として、このシンポジウムの“やる気”を持ち帰りたい。
- 東京一極集中を是正し、魅力ある地域を創生するための事業として、国と地方自治体とアカデミアと産業界が協力して、もう少し長いスパンでこの事業を進めてほしい。
- 千葉美輝さんの発表内容のとおり学生が地域のことをよく知る努力をすることが大切と考えました（学生が地域に出て関わりを持つことと、それを受け入れる体制づくりも大切）。立派で力強い発表で感心しました。
- オール青森で取り組むことは時間がかかるかもしれませんが、一般企業、自治体、大学が若者に機会をたくさん与えることが大事だと思いますので、我々教職員が地域と連携できるように進めたいと感じました。
- もっと新聞やテレビなどのメディアに進出してほしい。そうすれば、県民にもっと知られて興味をもってもらえると思う。
- 青森県の活力、県内大学・短大等の向上につながり、ここで学んだ、より多くのチャレンジする若者が県内で活躍できるようになればよいと思います。

■ COC + 事業新聞掲載記事

東奥日報 21面 (平成27年9月29日付)

弘大「COC+」に選定

就職率向上へ人材育成

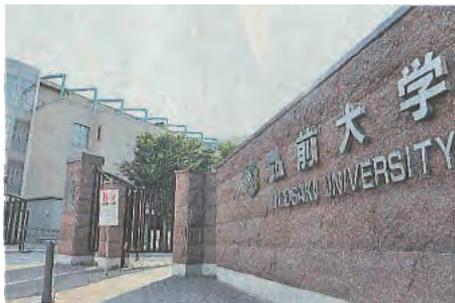
文科省が事業に補助金

弘前大学（佐藤敬学長）が他大学・自治体・企業など100以上の団体と連携して、県内就職率の向上を目指す事業が28日、文部科学省の「COC+」に選定された。COC+は、大学が企業などと共同で取り組む雇用創出や人材養成に対して補助する事業。選定されたのは申請があった全国56件のうち弘大を含む40件。

弘大が申請した「オール青森で取り組む『地域創生人材』育成・定着事業」の対象とした授業科目とするほか、学生の起業支援、女子学生のキャリア支援を図る。産官学が連携し農産物、医療福祉機器、自然エネルギー、温泉などをテーマにした新産業・ビジネスの創出にも取り組む。

参加団体は、東北女子大、弘前学院大、弘前医療福祉大、青森中央学院大、県立保健大、青森中央短期大、八戸工業高等専門学校、八戸工業大、八戸学院大の9大学1高専に加え、県と青森、弘前、八戸、むつ市の4市、県内企業・NPO法人など約100団体。

大学と企業などがインターネット上のプログラムを共同で開発し2〜4年生を対象とした授業科目とする



県内就職率向上を目指す事業が文科省の「COC+」に選定された弘前大学

事業は2015〜19年度までの5年間。参加大学卒業生の県内就職率は、38・1%（14年度）から10・1%（19年度）を目標とする。弘大は29・7%（14年度）から39・7%を目標とする。申請した補助金は2億7千万円程度。

佐藤学長は「地域人材の育成は弘大の本来の役割。採択で事業をスムーズに進めることができる」、吉澤篤副学長（企画担当理事）は「地域の良さを知って、学生が県内で活躍するため、会社、大学の相互の目的がかなえられるインターネット上のプログラムが必須」と話した。（佐藤彩乃）

東奥日報社提供

文科省「拠点大学による地方創生推進事業」

弘大の就職事業採択

“全県”で地元定着支援

弘前大学は28日、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC 十)」に県内の大学や自治体、企業などが協働し、学生の地元就職率アップに「オール青森」として取り組む事業が採択されたことを発表した。県内を4つの分野に分け、産官学連携による就職や起業支援などを展開し、県内就職率を2018年度までに14年度卒の38度まで10%増の48・1%まで引き上げる狙いだ。

COC十は大学が自治体や企業等と協働し、魅力ある雇用創出や地域のリーダーとなる人材養成を目的に、文科省が今年度から実施。事業期間は5年間。

「オール青森で取り組む『地域創生入財』育成・定着事業」をテーマに掲げ、弘大のほか県立保健大、八戸工業大など県内8大学、1高専と青森市、八戸市、弘前市、むつ市の4自治体、企業やNPOなど107社が参画し、「オール青森」のネットワークで連携。自治体ごとの4プロジェクトには各大学、企業が所属。共育型インターシップや女子学生のキャリア支援など教育プログラムの開発やアドバイザーによる起業支援、企業・大学それぞれを強みを生かした農産物のブランド化や温泉保養地のビジネス化など、新たな雇用

創出に向けた4分野での連携プロジェクトも展開する。

(山本恵子)

陸奥新報社提供

東奥日報 21面 (平成27年11月27日付)

事業の協定書を手にする大
学・高専、自治体の代表者



弘大と県内121団体がタッグ

オール青森で「人財」育成

就業体験企画開発や起業支援…

県内就職率向上を目指す

弘前大学（佐藤敬学長）が他大学・自治体・企業など計121団体と連携して、県内就職率の向上と雇用創出を目指す「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」の協定締結式が26日、青森市の青森国際ホテルで行われた。インターンシッププログラム開発や起業支援に取り組み、人口減少の克服を狙う。（佐藤彩乃）

同事業は9月、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択されている。事業の期間は2015年度から5カ年。申請した補助金の総額は約2億7千万円。

同日は弘前大学、東北女子大、弘前学院大、弘前医療福祉大、青森中央学院大、県立保健大、青森中央短期大、八戸工業高等専門学校、八戸工業大、八戸学院大の9大学1高専に加え、県青森、弘前、八戸、むつ市の4市の代表者が協定書に署名した。ほかに、製造業、金融機関、医療機関、東奥日報社を含むマスコミなど企業・NPO法人107団体が参加する。

祉機構、自然エネルギー、温泉などをテーマにした新

商品・ビジネスの開発などに取り組む。14年度の値を基準とし、参加校の卒業生の県内就職率を、38・1%（14年度）から10ポイント高い48・1%（19年度）に引き上げる。このうち弘大は29・7%（14年

度）から39・7%（19年度）を目指す。参加校の10%アップは県内就職の200人増加に相当する。佐藤学長は「容易ではないが、なんとか達成したい」と意気込んだ。県内就職率向上の一環と

して、参加団体による雇用創出数を14年度の46人から19年度には66人まで増やす目標を掲げる。

東奥日報社提供



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力の協定を締結した各大学と自治体の代表ら

拠点大学による地方創生推進事業

若者定住へ協定締結

弘大や県、就業・雇用など協力 弘前市など

学生の県内就職率向上と雇用創出を目指して弘前大学が申請し、今年度採択された文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に係る連携・協力に関する協定締結式が26日、青森市で開かれた。弘大を含む県内10の高等教育機関と県や弘前市など五つの自治体が、目標達成に向け協力を誓った。

(松田基継)

COC+は、大学が弘大が申請したの自治体や企業と協働し、県内の大学も自治体雇用創出や地域の体、企業などが連携リーダーとなる人材の「オール青森で育成」などを目的に、文取り組む『地域創生科省が今年度から実業』。弘前医療福祉大、青森中央学院大な

ど県内9大学と1高専、県と青森、弘前、八戸、むつ市のほか、企業やNPOなど107社が参画している。

県内を四つのプロジェクトに分け、就職・起業支援や地域版共育型インターンシップ、教育プログラム開発などを実施。各大学の特色を生かし、農産物のブランド化やツーリズム関連でのビジネス化など4分野のプロジェクトも展開。県内就職率を2018年度までに

14年度卒の38・1%から10%引き上げしていく。締結式では、弘大の佐藤敬学長が「10%ア

この後行われた「青森COC+推進機構」設立総会では、佐藤学長が機構長に就任。出席者が目標達成に向けて

それぞれ意見を出し合った。

陸奥新報社提供

若者の県内定着へ連携

弘前大 大学や自治体と協定締結



若者の地元定着を目指し、青森県内の高等教育機関や自治体などが連携を確認した協定締結式＝26日、青森市

文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCC)」で、9月に「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」が選定された弘

前大は26日、青森市で事業に参画する県内の9大学・短大・高専や自治体と協定を締結した。県内の高等教育機関や自治体、企業と連携し、県内の雇用創出や地

元定着率の向上を目指す。

弘前大と事業を「協働」で行うのは、八戸学院大など高等教育機関9校、県と八戸、むつなど4市、県内の企業やNPO法人など107団体。弘前大や県によると、10校の2014年度卒業者の県内就職率は38.1%で、若者の県外流出や人口減少が深刻化している。

同事業では中小企業の若

者ネットワークづくりを推進するほか、効率的な自然エネルギーの開発など地元雇用を創出するなどして、19年度の県内就職率について14年度比10.0ポイントアップの48.1%を目指す。

同日の締結式では、同大の佐藤敬学長や三村申吾知事に15人が出席し、協定書にサインを交わした。佐藤学長は「達成できれば地域へのインパクトは強いが、必ずしも容易ではない。皆さまの協力の下、数値目標を達成し、若者の地域定着以上にいろんな成果を上げたい」と強調した。

(下田由理恵)

デーリー東北新聞社提供

創生へ大学の関わりは

シンポジウム 講演や取り組み報告

青森

青森COO推進機構でシンポジウム「大演やパネルディスカッション」が11日、青森の未来」を開き、参加した約200人の森市の青森中央学院大。有識者による講



人口減少克服や地方創生について理解を深め、森で取り組む『地域創生人財』育成・定着を目的に、昨年11月に同機構は「オール青森」設立。弘大など県内9

地方創生と大学、地域の関わりなどについてパネルディスカッションなどが行われたシンポジウム

大学と1高専、県と弘前など4市、企業やNPOなど107社が参画し、2019年度の学生の県内就職率を14年度比10ポイント増の48・1%に引き上げることなどを目指す。

シンポジウムでは、佐藤機構長が「地方創生は決して易しいことではない。この機会をスタートに、本県の発展のために皆さんとともに貢献していき

い」とあいさつ。文部科学省の義本博司大臣官房審議官（高等教育担当）が「地方創生と大学」をテーマに基調講演し、県企画調整課の丸尾豊総括副参事

が県の地方創生への取り組みを報告した。「大学と地域が共に担う人財育成」と題したパネルディスカッションでは、弘大の曾我亨副理事・人文学部教授が「学生に『残って』と言う事業ではない。学生が県内で挑戦する機会を与えなければ成功しない」と指摘。21世紀型集会所

「indriya」（弘前市）の大西晶子代表は「一人ひとりが価値観を改めようという気持ちを持つて、前向きに取り組む。青森はいいところで、人を育てる土壌があるという空気を高めていくと、県外からも人が来て活性化するのでないか」と述べた。（森内茂樹）

陸奥新報社提供

■COC+事業リーフレット



平成27年度採択
文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

【COC+大学(参加大学等)】青森県立保健大学／東北女子大学／八戸工業大学／弘前学院大学／八戸学院大学／青森中央学院大学／弘前医療福祉大学／青森中央短期大学／八戸工業高等専門学校【**参加自治体**】青森県／青森市／弘前市／八戸市／むつ市【**参加企業等(青森ブロック)**】青森朝日放送(株)／(株)青森銀行／青森経済同友会／(一社)青森県銀行協会／青森県警察本部／(一社)青森県工業会／(一社)青森県情報サービス産業協会／青森県信用組合／青森商工会議所／(株)青森テレビ／青森放送(株)／(NPO)青森未来エネルギー戦略会議／(株)大坂組／(株)オカムラ食品工業／(協組)カクヒログループ／(株)サンワドー／(株)JR東日本青森商業開発／(一社)慈恵会／(協組)タツケン／(同)tecoLLC／(株)東興日報社／(公財)21あおもり産業総合支援センター／(株)ビジネスサービス／(株)富士清ほりうち／(医)美碧会／(NPO)ブラットフォームあおもり／丸太堀内(株)／(株)みちのく銀行【**参加企業等(弘前ブロック)**】青森県農村工業農業協同組合／(公財)鷹揚郷／カネシヨウ(株)／キヤノンプレジジョン(株)／(株)小林紙工／(株)シバタ医理科／東興信用金庫／東北化学薬品(株)／弘前中央青果(株)／(株)弘前公益社／弘前航空電子(株)／弘前商工会議所／フジプラント(株)／ブナコ(株)／前田酒類食品販売(株)／マルマンコンピュータサービス(株)／三ツ矢交通(株)／(株)陸奥新報社／(株)ラグノオささき／(一財)黎明郷／六花酒造(株)／青森オリンピック(株)／(地独)青森県産業技術センター／環境保全(株)／(株)木村食品工業／(株)光成精工／(株)あおもり海山／東和電機工業(株)【**参加企業等(八戸ブロック)**】青い森信用金庫／(一財)青森県工業技術教育振興会／アルバック東北(株)／エスプロモ(株)／エプソニアックス(株)／(株)オダブリント／(株)抗菌研究所／(株)サンピューター／(株)サンデー／(株)ジーアアイテック／(NPO)循環型社会創造ネットワーク／大平洋金属(株)／武輪水産(株)／多摩川精機(株)八戸事業所／中発テック(株)／(有)塚原／(株)デーリー東北新聞社／東京鉄鋼(株)環境リサイクル事業部／東北建機工業(株)／東北容器工業(株)／トウルージオ(株)／ノーザンライツ(株)／八戸ガス(株)／八戸鉱山(株)／八戸酒造(株)／八戸商工会議所／八戸製錬(株)八戸製錬所／八戸セメント(公財)八戸地域高度技術振興センター／(株)マーシュ／マネックス証券(株)／マルヨ水産(株)／三菱製紙(株)八戸工場／三八五自動車整備工業(株)／三八五流通(株)／(株)よこまち／(株)吉田産業／(株)リゲイン／(株)ササキコーポレーション／(有)身土不二／太子食品工業(株)／大蔵工業(株)／(株)東北産業／東北三吉工業(株)【**参加企業等(むつブロック)**】(有)サンマモルワイナリー／(NPO)ぶらっと下北／むつ商工会議所／(株)マエダ／(国研)日本原子力研究開発機構青森研究開発センター／日本原燃(株)／むつ小川原港洋上風力開発(株)

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」とは
大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組に文部科学省が支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

**ALL
AOMORI
COC+**

青森COC+推進機構
事務局 国立大学法人弘前大学
〒036-8560
青森県弘前市文京町1番地
TEL 0172-39-3305/3306
FAX 0172-39-3309
E-mail coc@hirosaki-u.ac.jp
Web http://coc.hirosaki-u.ac.jp



**ALL
AOMORI
COC+**

オール青森で取り組む
「地域創生人財」育成・定着事業

青森COC+推進機構

地域で生活し、地域で働き、地域創生に取り組む「地域創生人財」の育成・定着を目指します。

こあいざつ



弘前大学は平成26年度にCOC事業採択を受け、地域志向教育改革を中心に進めてきましたが、平成27年度からはさらなる強化により明確な目標をもってCOC+事業に採択されました。

このCOC+においては、「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着」をテーマとして、青森県や県内の自治体及び大学・高専をはじめ、多く企業・団体等の協力をいたいたいで、地域活性化に寄与する人財の育成を全県態勢で進めることとして、この事業によって、私たちの使命である地域活性化への貢献が一層加速されるようになっていくことを大変喜ばしく思っています。

今後とも皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。

青森COC+推進機構長 佐藤 敬

弘前大学長



人口減少は地域経済の縮小や地域コミュニティの機能低下など、本県の社会経済に大きな影響を及ぼすことから、人口減少の克服は県政の最重要課題となっております。

このため、県では「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」を策定し、本県の強みをとことん生かした魅力あふれるしごとづくりや、若者の県内定着の促進など、人口減少克服に向けた取組を強力に進めることとしています。

こうした中、本事業では、弘前大学が中心となり、県内の大学等、青森市、弘前市、八戸市及びむつ市、さらには県内企業、団体等が、地域創生人財の育成・定着を進めることとされており、非常に心強く感じています。

将来にわたって持続可能なふるさと青森県の実現に向け、皆様と一緒に全力で取り組んでいきます。

青森県知事 三村 申吾

青森COC+推進機構

平成27年11月26日、本事業に参画する青森県内の大学・高等専門学校・青森県はじめ4市の長が一堂に会し「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に係る連携・協力に関する協定」を締結しました。同日、本協定を受け、弘前大学長を機構長とする「青森COC+推進機構」が発足しました。同推進機構はCOC+事業全体を統括し、「オール青森」による取組を進めます。

青森COC+推進機構
 機構長 弘前大学長
 副機構長 青森中央学院大学長
 八戸工業高等専門学校校長
 青森県立保健大学長
 監 事 八戸学院大学長



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る連携・協力に関する協定締結式

事業目的

オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

人口減少克服に向け、青森の力を結集します。

青森県の最大の課題である「人口減少克服」のために、青森県内の大学・高等専門学校計10校と、青森県、青森市、弘前市、八戸市、むつ市の4市、100を超える県内企業・団体・NPO等による「オール青森」ネットワークを形成し、「地域創生人財」の育成と、学生・青森県内への就職や起業支援、雇用創出に一丸となって取り組む。平成31年度までの5年間で、学生の青森県内への就職率を平成26年度から10%向上させることを目標にしています。

事業内容

青森県内での就職・起業を支援します。
「青森県内の企業に就職」や「青森県で起業」を目指す学生を支援します。

- 学生企画による企業調査・就職説明会
- アドバイザーによる起業支援
- 地元企業の若者ネットワークづくり
- 就職後のキャリアアップ支援 など

青森県の未来を担う人財を育成します。

「地域創生人財」を育成する教育プログラムを開発・実施します。

- 地元企業・地域共育型インターンシップ
- 女子学生のキャリア支援プログラム
- 学生発起業実行プログラム

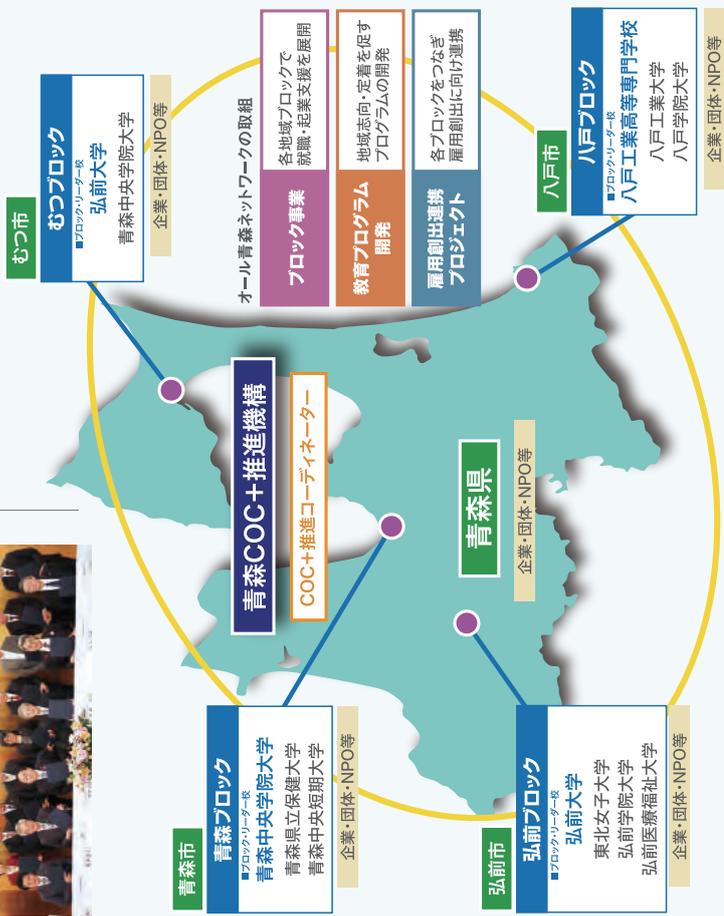
大学発新産業で雇用創出を目指します。

青森県の強みである4分野で、各大学・企業等のチーム力による雇用創出を目指します。

アグリ(農林水産) / ライフ(医療・健康・福祉) / グリーン(環境・エネルギー) / ツーリズム(観光)

事業目標

項目	平成26年度	平成31年度(目標)
事業協働地域就職率	38.1%	48.1%
事業協働機関へのインターンシップ参加者数	190人	500人
事業協働機関からの寄付金額	178,160千円	200,000千円
事業協働機関雇用創出数	46人	66人



企業・団体・NPO等

企業・団体・NPO等

企業・団体・NPO等

企業・団体・NPO等

企業・団体・NPO等

■COC + シンポジウム チラシ



平成27年度採択 文部科学省 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

COC+シンポジウム

大学と地域が 協創する 青森の未来

ALL AOMORI COC+

2016

3.11【金】

13:00 - 16:00

青森中央学院大学 学術交流会館

(青森県青森市横内字神田12)

定員200名 入場無料・要事前申込

【対象】COC+参加大学等の教職員・学生
自治体関係者 / 企業関係者 / 県内在住者 等

【問合せ・申込先】

青森COC+推進機構 事務局 国立大学法人弘前大学
TEL 0172-39-3305 / 3306 FAX 0172-39-3309
Mail coc@hirosaki-u.ac.jp Web http://coc.hirosaki-u.ac.jp

オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

青森県内の大学・高専・自治体・企業等が連携して「オール青森」ネットワークを形成。「創造力」「志・意欲」「実行力・仲間力」を持った人財を育成し、青森県の最大課題である「人口減少克服」を目指します。

プログラム

第一部

機構長(弘前大学長)挨拶

青森COC+推進機構長 弘前大学長 佐藤 敬

基調講演 「地方創生と大学(仮題)」

文部科学省 大臣官房審議官 (高等教育局担当) 義本 博司

報告 「青森県における地方創生」

青森県企画政策部企画調整課 総括副参事 丸尾 豊

学生メッセージ

弘前大学 理工学部 4年 島中 勝司
青森中央学院大学 経営法学部 4年 千葉 美輝

第二部

パネルディスカッション

「大学と地域が共に担う人財育成

— 学生たちとの地域[共育]を考える —

パネリスト

文部科学省 大臣官房審議官 (高等教育局担当) 義本 博司

弘前大学 副理事・人文学部教授 曾我 亨

青森県企画政策部企画調整課 総括副参事 丸尾 豊

21世紀型集会所 indriya 代表 大西 晶子

コーディネーター

青森COC+推進機構 COC+推進コーディネーター 吉川 源悟

主催 青森COC+推進機構

弘前大学(機構長) 青森県立保健大学 東北女子大学 八戸工業大学 弘前学院大学 八戸学院大学
青森中央学院大学 弘前医療福祉大学 青森中央短期大学 八戸工業高等専門学校
青森県 青森市 弘前市 八戸市 むつ市

■ 講師・パネリスト

文部科学省 大臣官房審議官 (高等教育局担当)

義本 博司 (よしもと ひろし)



昭和59年 高等局大学課
平成7年 フランス大使館一等書記官
平成10年 官房総務課審議班主査
(兼)法令審議室長
平成10年 高等局奨学官
(兼)中央省庁等改革推進本部事務局企画官
平成12年 官房総務課補佐(秘書官事務取扱)
平成13年 生涯局政策課生涯学習企画官
平成14年 官房企画官(兼)行政改革官
(兼)行政改革推進室長(兼)情報公開室長
平成15年 初中局幼児教育課長
平成16年 官房総務課広報室長(命)文部科学広報官
平成18年 厚労省雇用均等・児童家庭局保育課長
平成20年 高等局大学振興課長
平成21年 同 高等教育企画課長
平成24年 官房会計課長
平成25年 同 審議官(初中局担当)
平成26年 同 審議官(高等局担当)

会場アクセス



青森中央学院大学 学術交流会館
(青森県青森市横内字神田12)

青森中央学院大学構内については、青森中央学院大学ホームページ(<http://www.aomorigu.ac.jp/>)をご確認ください。



お車でご来場の際は、「学生駐車場」(特別養護老人ホーム三思園の看板が目印)をご利用ください。

新青森駅・青森駅よりシャトルバスを運行します(無料)

■ 新青森駅発 12時10分 ■ 青森駅発 12時10分

青森中央学院大学・青森中央短期大学名入りのバスに乗車ください。

乗車場所等の詳細は別途ご連絡いたしますので、シャトルバス利用希望の方は、参加申込時にシャトルバスの利用と乗車場所(新青森駅または青森駅)をお申ください。

■ 参加申込

シンポジウムに参加を希望する方は、下記に必要事項を記入の上、FAXまたはE-mailにてお申ください。

申込期限 平成28年3月7日(月)まで

所属	氏名	連絡先電話番号 / メールアドレス	シャトルバス利用
			<input type="checkbox"/> 利用する — <input type="checkbox"/> 新青森駅 <input type="checkbox"/> 青森駅 <input type="checkbox"/> 利用しない
			<input type="checkbox"/> 利用する — <input type="checkbox"/> 新青森駅 <input type="checkbox"/> 青森駅 <input type="checkbox"/> 利用しない

FAX 0172-39-3309

E-mail: coc@hirosaki-u.ac.jp

■ パネリスト

弘前大学 副理事・人文学部教授

曾我 亨 (そが とおる)



平成22年 弘前大学教授
平成24年 弘前大学生涯学習教育研究センター長
平成26年 弘前大学副理事
専門は生態人類学・アフリカ地域研究。
毎年、アフリカで現地調査をする一方で、授業では津軽の地域研究を指導。弘前大学COC・COC+の牽引役として奔走中。

青森県企画政策部企画調整課 総括副参事

丸尾 豊 (まるお ゆたか)



平成21年 総務省入省
平成21年 香川県政策部自治振興課
平成22年 香川県政策部政策課予算調整室
平成23年 総務省消防庁救急企画室
平成24年 総務省自治財政局地方債課
平成26年 内閣官房副長官補付
平成27年 現職

21世紀型集会所 indriya 代表

大西 晶子 (おおにし しょうこ)



高等学校教諭を経て、働く女性の憩いの時の創出のため、各種教室のコーディネートを始める。
平成20年、誰もが集える形の「集会所project」を立ち上げる。
平成24年、食食カフェを併設した21世紀型集会所indriyaを弘前市紙漣町にオープン。「共生・協働」をテーマに地域で活動するSEEDS NETWORK代表。

■ コーディネーター

青森COC+推進機構
COC+推進コーディネーター

吉川 源悟 (よしかわ げんご)



昭和49年青森県職員 県情報センター所長(福岡・大阪)、新幹線交流推進課長、秘書課長、総務部参事、県東京事務所長
平成23年青森県商工会連合会専務理事
平成27年12月よりCOC+推進コーディネーターに就任し、本COC+事業の進捗管理、関係機関との調整役を担う。

■ 学生メッセージ発表者

弘前大学 理工学部 4年

島中 勝司 (しまなか まさし)



青森県青森市生まれ。
青森県立青森東高等学校卒業後、平成24年4月に弘前大学理工学部知能機械工学科入学。平成28年4月より東北圏内の企業に就職予定。機械大好きな典型的理系男子の一方で、学生時代はバスケットやハンドボールに明け暮れるなど、運動も得意で甘いもの好き。

青森中央学院大学 経営法学部 4年

千葉 美輝 (ちば みき)



青森県青森市生まれ。
青森県立青森西高等学校卒業後、平成24年4月に青森中央学院大学経営法学部入学。平成26年、「青森から日本の就活を変える」をコンセプトとする学生団体「WORKx2(わくわく)ラボ」代表に就任し、「合同企業説明会」等を企画・開催。

■青森ブロック 共育型インターンシップシンポジウム チラシ

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

文部科学省

地(知)の拠点 青森中央学院大学

青森中央学院大学は、「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」の参加校です。

青森ブロック

共育型インターンシップ シンポジウム

～地域と企業と学生が共に育てあう「あおもり」を創る～

共育型インターンシップについて、先進他地域の事例を学びながら、青森県の課題を整理し「地域に根ざしたしくみ」を作り出すためのシンポジウムを開催します。

2016.3.3木

13:30 - 17:00 [受付:12:30~]

青森国際ホテル2階 春秋の間
(青森市新町1丁目6-18)

参加対象者 定員...100名/参加費...無料

- ・県内でインターンシップ学生を受け入れている企業経営者
- ・COC+関係者
- ・県内企業経営者
- ・インターンシップに参加する大学生

申込方法

専用フォーム及びFAX・電話にて受付しております。FAXでのお申し込みの際は裏面の申込用紙をご利用ください。

懇親会 ※任意参加

終了後に会費制による懇親会を予定しております。
青森国際ホテル 1F Kukka
会費4,000円

お問い合わせ先

お問い合わせは下記にて受付しております。
青森中央学院大学 COC+事業推進事務局
越膳・佐藤 直通 017-728-8161

主催

青森COC+推進機構(青森ブロック)
(事務局:青森中央学院大学)

共催

NPO法人プラットフォームあおもり
(経済産業省平成26年度補正予算「地域中小企業・小規模事業者人材確保等支援事業」青森県コーディネート機関)

»タイムテーブル

13:30~	開会挨拶 青森中央学院大学学長 花田 勝美
13:35~	挨拶 弘前大学理事(企画担当) 吉澤 篤
13:40~	COC+事業概要説明(共育型インターンシップを中心として) 弘前大学副理事 曾我 亨
13:50~	先進事例紹介・質疑応答
15:00~	グループワークによる課題整理と全体トークセッション

»先進事例紹介



Case.1
首都圏の学生を地方に送りだす仕掛けづくり
NPO法人ETIC. プロジェクト事業部マネージャー 伊藤 淳司 氏



Case.2
大学のない地域に若者を呼び込む工夫
株式会社夢古道おわせ 支配人 伊東 将志 氏



Case.3
企業だけに頼らない長期インターンシップ
株式会社ルーツ 野中 光 氏

■青森ブロック クアオルト推進シンポジウム チラシ

「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」
 オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

文部科学省 地(知)の拠点 青森中央学院大学

青森中央学院大学は、「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」の参加校です。

ク ア オ ル ト

クアオルトとは、ドイツ語で
「療養地」を指す言葉です

推進シンポジウム

健康なまちづくり、職場づくりに活かそう「浅虫温泉・海山クアの道」

先進地の実践事例の紹介をはじめ、県内でも取り組みを始めた企業や市町村からの実践や課題などの提言によって、参加者にクアオルトの考え方や「浅虫温泉・海山クアの道」を身近に感じていただくことが本シンポジウム開催のねらいです。

また、先進地の事例紹介を通して青森版クアオルトのビジネス化に向けて今後の取り組みを考えることも本シンポジウムのねらいとしています。

2016.3.13 日 13:00 - 16:00 [受付: 12:30~]

青森国際ホテル5階 芙蓉の間 (青森市新町1丁目6-18)

タイムテーブル

13:00~

開会挨拶

13:05~

基調講演

「健康なまちづくり、職場づくりに活かそう
健康保養地(クアオルト)の取り組み」

日本クアオルト研究機構 事務局長・クアオルト研究室
代表 芸術工学博士 小関 信行 氏

13:50~

シンポジストによる取り組み状況

15:00~

質疑応答・助言・ディスカッション

シンポジスト

① クアオルトを健康な職場づくりに取り組み始めた

青森銀行保健師 釜石 あずさ 氏

② クアオルトを健康なまちづくりに取り入れようとしている

野辺地町保健師 飯田 貴子 氏

③ 先進地の取り組み状況紹介

青森中央学院大学 准教授 鎌田 明美

青森中央短期大学 講師 菊池 美智子

参加対象者

定員...100名 / 参加費...無料

- ・市町村保健師、県庁を含む保健所保健師
- ・産業保健師、看護職
- ・在宅保健師、国保連合会
- ・浅虫クアガイド、青森市健康リーダー・サポーター
- ・関係自治体(青森県、青森市他)、青森商工会議所
- ・観光関連企業・団体、一般企業

申し込み先

お問い合わせは下記にて受付けております。
 青森中央学院大学 COC+事業推進事務局
 直通 017-728-8161 FAX 017-738-8333
 E-MAIL acgu-coc@aomorigu.ac.jp

主催

青森COC+推進機構・雇用創出連携プロジェクト(ツーリズム)
 (事務局:青森中央学院大学)

■八戸ブロック キックオフ・フォーラム チラシ



〈弘前大学COC+参加校〉
八戸工業大学／八戸学院大学／八戸工業高等専門学校

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
～オール青森で取り組む
「地域創生人財」育成・定着事業～

講師 Lecturer



株式会社MMコンサルティング
代表取締役

上野 光夫 氏

起業して事業を長く続ける経営者になるために
～事業プランから資金計画まで起業ログのススメ～

昨今、起業がブームといえるほど活発になっています。しかし、起業はスタートでありゴールではありません。最大の課題は、いかにして長期に繁栄する事業にするかということです。3万人の社長と会ってその実態を見てきた講師が、起業を成功させ事業を長く続けるために必要な起業準備について解説します。

講師 Lecturer



八戸学院大学
学長

大谷 真樹 氏

戦略視点からの青森型起業とは

2009年から受講者130人以上、20人以上の起業家、第二創業創出を支援してきた八戸学院大学起業家養成講座の取り組みと地域資源の組み合わせによる戦略戦術の実例を紹介し、青森型起業のポイントと課題を提言します。

お問い合わせ／八戸工業高等専門学校 [総務課 地域連携係]
〒039-1192 八戸市大字田面木字上野平16-1 TEL 0178-27-7239
E-mail renkei-o@hachinohe-ct.ac.jp

「地域に根ざして
起業するために
戦略から事業プランまで」

COC+ HACHINOHE BLOC KICK OFF FORUM

八戸ブロック キックオフ・フォーラム

平成28年

2.11 [木・祝]

14:00 ▶ 17:00

(開場・受付/13:30)

会場／八戸グランドホテル
「グランドホール」
青森県八戸市番町14

定員／150名 入場無料 [申込不要]

主催／青森 COC+ 推進機構 (八戸ブロック)

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)
～オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業～

COC+ HACHINOHE BLOC KICK OFF FORUM

八戸ブロック キックオフ・フォーラム

地域に根ざして起業するために — 戦略から事業プランまで —

プログラム Program

COC+とは

大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する取組みを支援する文部科学省の事業です。地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的としています。

- 14:00 ▶ **開会挨拶**
八戸工業高等専門学校長 岡田 益男
挨拶
弘前大学理事(企画担当) 吉澤 篤
青森県三八地域県民局(予定)
八戸市(予定)
- 14:20 ▶ **COC+事業概要説明**
弘前大学副理事 曾我 亨
- 14:30 ▶ **これまでの地域に向けた取組み**
八戸工業大学 (八戸工業大学 COC+事業担当)
八戸学院大学 (八戸学院大学 COC+事業担当)
八戸工業高等専門学校 (八戸工業高等専門学校 COC+事業担当)
八戸ブロックにおけるCOC+事業展開 (八戸工業高等専門学校 COC+事業担当)
- 15:00 ▶ **講演 1**
「起業して事業を長く続ける経営者になるために」
～事業プランから資金計画まで起業ログのススメ～
株式会社MMコンサルティング代表取締役 上野 光夫 氏
- 16:00 ▶ **講演 2**
「戦略視点からの青森型起業とは」
八戸学院大学長 大谷 真樹 氏
- 16:40 ▶ **質疑応答**
- 16:50 ▶ **閉会挨拶**
八戸工業大学長 藤田 成隆

※プログラムの内容は予告なく変更となる場合がございますのでご了承ください。

講師プロフィール Profile

株式会社MMコンサルティング 代表取締役

上野 光夫 氏

1962年鹿児島県生まれ。
株式会社MMコンサルティング代表取締役・中小企業診断士。
九州大学を卒業後、日本政策金融公庫(旧国民生活金融公庫)に26年間勤務し、主に中小企業への融資審査の業務に携わる。3万社の中小企業への融資と、5千名の起業家への創業融資を担当した。融資総額は2,000億円にのぼる。
2011年4月にコンサルタントとして独立。起業支援コンサルティング、資金調達サポートを行うほか、研修、講演、執筆など幅広く活動している。日本最大の起業家支援プラットフォーム「DREAM GATE」において、アドバイザーランキング「資金調達部門」で3年連続して第1位に輝く。

著 書 「3万人の社長に学んだ「しぶとい人」の行動法則」(日本実業出版社)
「起業は1冊のノートから始めなさい」(ダイヤモンド社)
「儲かる社長」と「ダメ社長」の習慣」(明日香出版社)
「仕事で結果を出す人はこの「きれいごと」を言わない」(フォレスト出版)

八戸学院大学 学長

大谷 真樹 氏

1961年八戸市生まれ。
学習院大学経済学部卒業。民間企業勤務を経て、市場調査会社、株式会社インフォプラント(現 株式会社マクロミル)を創業。
2001年に起業家のアカデミー賞といわれる「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー・スタートアップ部門優秀賞」を受賞。2008年に八戸大学客員教授、2010年に八戸大学・八戸短期大学総合研究所長・教授、2011年に八戸大学学長補佐、2012年4月八戸大学学長(2013年4月八戸学院大学に校名変更)、2014年4月八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センター長(兼務)大学では「中小企業・ベンチャー企業論」「イノベーションマネジメント」「新農業ビジネス」等の科目を担当し、地域連携研究センターでは「10年で100人の起業家を青森から」をスローガンに社会人講座「起業家養成講座」の主任講師を務め、起業家を輩出している。

お問い合わせ／八戸工業高等専門学校 [総務課 地域連携係]

〒039-1192 八戸市大字田面木字上野平16-1 TEL 0178-27-7239 E-mail renkei-o@hachinohe-ct.ac.jp

身近な企業をもっと知ってみよう

あおもり県南地域 企業内容説明会

青森県南地域限定の企業説明会です。

このような
学生に
最適です。

- 地元で働きたい
 - 地元でどのような企業があるか知りたい
 - 希望している業界・職種の様子を知りたい
- ※本説明会は採用選考活動ではなく、キャリア教育として実施するものです。

平成
28年

3月24日 木

14:00▶16:00 [受付13:30]

会場：八戸プラザホテル アーバン
ホール

参加費無料

当日参加OK

入退場自由



対象

平成29年3月[大学等]卒業予定者 (在学中の学生も歓迎!)

- ※大学等……大学院、大学、短大、高専、専修(専門学校)、職業能力開発校(高卒者を対象とする2年以上の訓練)
- ※スーツ又は制服着用

参加企業

青森県南地域企業(50社程度)

最新情報はHPにて随時更新中!!

左記QRコードよりアクセスできます▶

<http://www.hachinohe-ct.ac.jp/info/2016/02/000461.php>



COC+ HACHINOHE BLOC >>>

主催 | 青森 COC+ 推進機構(八戸ブロック)
(弘前大学COC+参加校) 八戸工業大学・八戸学院大学・八戸工業高等専門学校

共催 | 青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)

お問い合わせ | 八戸工業高等専門学校 [総務課 地域連携係]
〒039-1192 八戸市大字田面木字上野平16-1 TEL: 0178-27-7239 E-mail: renkei-o@hachinohe-ct.ac.jp



弘前大学 COC・COC+

全学説明会



平成 26 年度採択
地(知)の拠点整備事業(大学 COC 事業)

青森ブランドの価値を
創る地域人財の育成



本学が平成26年度に採択されたCOC事業と平成27年度に採択されたCOC+事業について
教職員・学生を対象とした説明会を開催いたします。ぜひご参加ください。

日時

平成28年 **1月25日**(月)
13:30 ~ 15:00

場所

文京キャンパス **総合教育棟1階**
101 講義室

対象

本学教職員・学生



平成 27 年度採択
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

オール青森で取り組む
「地域創生人財」
育成・定着事業



地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に係る
連携・協力に関する協定締結式

プログラム

- 学長挨拶 弘前大学長 佐藤 敬
- COC・COC+の取組について(仮題)
文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室
課長補佐 永田 昭浩
- 本学COC・COC+事業について
弘前大学 理事(企画担当)・副学長 吉澤 篤
- 本学の教育改革について
弘前大学 理事(教育担当)・副学長 伊藤 成治

【問合せ先】学務部教務課教育改革推進室 TEL : 0172-39-3305 (内線3305・3306) Mail : coc@hirosaki-u.ac.jp

平成27年度採択 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

オール青森で取り組む「地域創生人財」育成・定着事業

平成27年度 事業成果報告書

発行日 平成28年10月

編集・発行 青森COC+推進機構 事務局

国立大学法人弘前大学 COC推進室

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

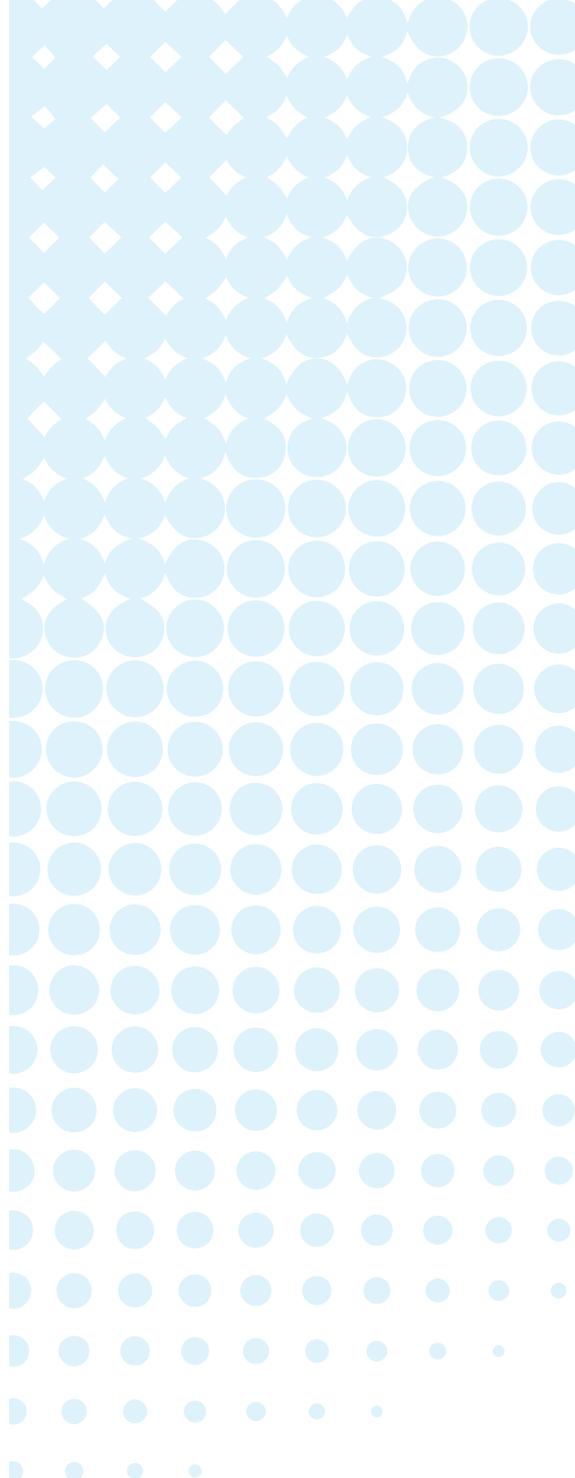
TEL 0172-39-3305/3306 FAX 0172-39-3309

E-mail coc@hirosaki-u.ac.jp

Web <http://coc.hirosaki-u.ac.jp>



地(知)の拠点



青森COC+推進機構